令和４年(2022)4 月１日
校 長　　名和野 新吾

令和４年度(2022 年度)京都市立銅駝美術工芸高等学校 学校経営方針

本校は，140 周年を超える歴史と伝統のある美術専門高校として，その時代に呼応した豊かな教育実践を行い，京都をはじめ日本の伝統文化・芸術を牽引する青年を育成してきた。2010 年代に入り VUCA と言われる予測困難な時代と言われている社会状況の中，本校は美術「を」学ぶから美術「で」学ぶ学校へ変革すべく教育改革に取り組んでいる。さらに来年度の移転を機に，50 年後や 100 年後を見据えた学校づくりと教育活動の更なる改善を実践することが求められている。本校の教育理念と教育目標をはじめとする学校グランドビジョンを達成し，世界に誇れる Only One の学校とすべく，「本校が美術専門高校であること」の強みを生かしながら，学校力の一層の向上に努め，本校教育への生徒，保護者，市民の信頼と期待に応えていかなければならない。

そのため，今年度の学校経営方針と指導の重点を以下のように示す。

＜学校経営の基本方針＞

（1）新学習指導要領および学校グランドビジョンに基づく授業改善

教職員は，教育活動の基本は「授業」であることを認識し，「育てる生徒像」の実現に向けた徹底した授業改善を行う。

（2）社会に開かれた教育課程に基づく，教育活動の実践・充実

教職員は，学校内外の繋がりを通して，積極的に外部機関との情報交換や交流を行い，授業や特別活動，課外活動において連携・協働しながら，教育活動を行う。

（3）将来に続くキャリア教育の実践

教職員は，「目指す教師像」の実現に向け学び続けながら，「アートと社会をつなぐ」教育の実践を心がけ，生徒が将来ビジョンを描くことのできるキャリア教育を行う。

（4）教育活動を向上させる組織的な“チーム学校”体制を推進

教職員は，信頼と共感に基づく組織作りと学校経営に参画する意識を高め，何事にも対話と協働により組織的に対応できる“チーム学校”体制を構築する。

（5）持続可能な効率的・効果的な学校運営

教職員は，生徒の教育に携わる時間や，専門性を高めるための時間を確保するため，外部専門家の活用，学校行事の精選，事務処理等の時間短縮や職場環境の改善を図り，ワークライフバランスのとれた職場環境を目指す。

➡ 裏面に続く

＜指導の重点＞

（1）将来を見据えたこれからの時代に必要な資質・能力の育成

教職員は，生徒の資質・能力や学校が持つ強みを生かし，美術工芸専門教科，普通科教科，総合的な探究の時間，特別活動，課外活動の教育効果と教科横断型の学びを意識し，主体的・対話的で深い学びを重視した授業実践を図り，生徒の自主的・意欲的な学習態度を奨励することで「主体的に学習に取り組む態度」や「将来にわたって学び続けることができる力」の基盤の育成に積極的に取り組む。

（2）京都の資源を活かした教育活動の推進

教職員は，京都にある美術専門の学校としての存在意義を重視し，「開かれた教育課程」の実現を推進するため，地元の伝統産業界やベンチャー企業をはじめ，教育機関，研究機関などと積極的に連携を図り，生徒の視野を広げ将来に向けたキャリア目標を持てるような教育活動に取り組む。

（3）生徒一人ひとりを大切にする教育活動の推進

教職員は，生徒一人ひとりの個性や能力を十分に把握し，生徒自身が「確かな手応え」が感じられるきめ細かな指導を行い，「個に応じた教育」を推し進め，適切な評価に基づく生徒の学習改善，教員の授業改善を行う。また，日常的に生徒をよく観察し，生徒のニーズや課題を的確に掌握，その情報を共有し，時期を逸することのない組織的な対応を行うことで，生徒自身が自己の心身をコントロールする力，自己理解や他者理解の意識を育成する。

（4）多様性を尊重し，自他ともに大切にする態度を育成

教職員は，全ての教育活動の中で，自他を尊重する意識，多様性を認め合う姿勢，ルールやモラルを疎かにしない態度を育成する。特に国際交流や異文化交流などの取り組みを積極的に行うことによって，多様な文化背景を持つ人々を尊重できる態度を育成する。また，いじめや暴力など人権を傷つける行為を絶対に許さない指導を進め，人権文化を高める。

（5）ハイブリットな教育実践の推進

学校として ICT 機器活用教育を積極的に進め，校内 Wi-Fi 環境，BYOD（生徒がタブレットを学びの教具として持参）の環境を生かし，対面とオンラインでのハイブリッドな教育実践を図る。また，ICT 機器を活用した外部連携を進め，オンラインの利点を活かした社会の「知」へのアクセスや外部機関との協働した学習を推進し，生徒の興味関心を深める。